

地方経済情報 Weekly No.240

中小・中堅企業における先端技術の活用 ～コロナ下で広がるDXの波～

1. コロナ下で加速するDX

コロナ禍で多くの企業が危機耐性を問われています。このような中、先端技術（IoT、AI、ロボット等）を活用して柔軟性の高い経営・生産体制をつくり、対応力を高めるデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む企業が増えています。

2. 中小・中堅企業の先端技術活用状況

財務省調査によると中小・中堅企業の活用状況は、先端技術を「活用済み」との回答は大企業を下回っています（図表1）。また、中小・中堅企業が先端技術を「活用したくてもできない」理由としては、「人材（IT技術者等）の不足」、「費用対効果が低い」等が挙げられています。

3. 活用目的は省力化推進が上位

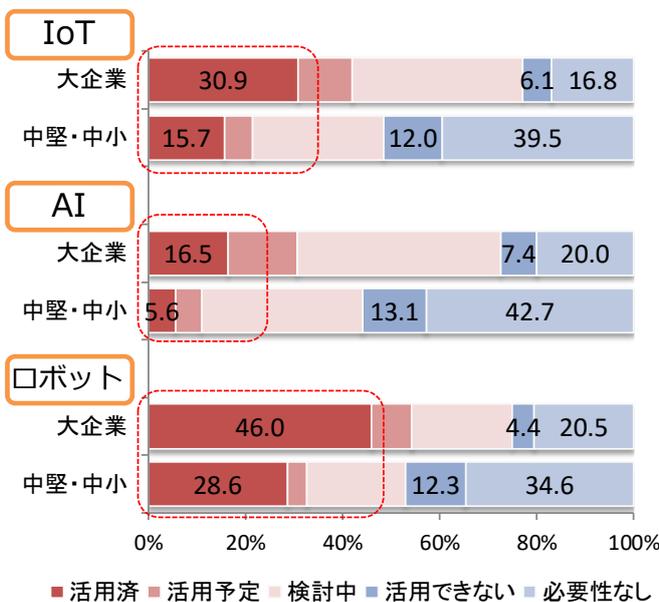
中小・中堅企業の先端技術の活用目的は、「業務効率の向上」、「コスト削減」等の省力化推進が上位にあります。一方で「競争力強化」や「新製（商）品・サービスの開発」等の新たな付加価値創出のための活用は、あまり進んでいないようです（図表2）。

4. 求められるDX進展に向けた環境整備

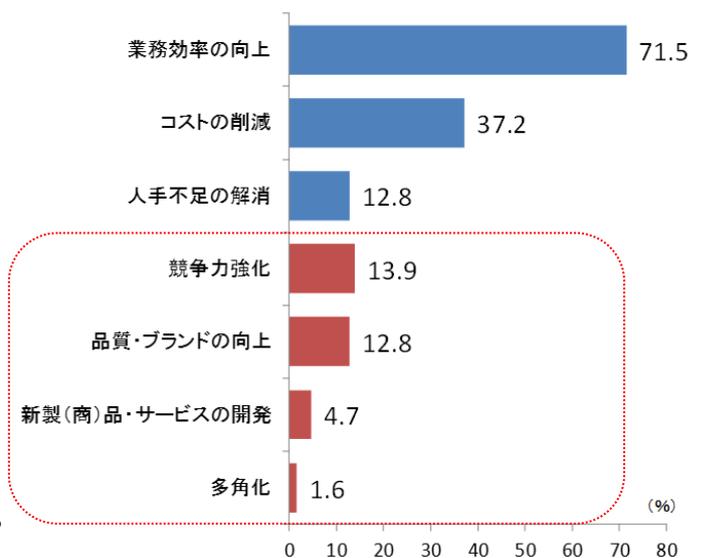
先端技術によるデジタル化やデータ活用の動きは大手企業が先行していますが、中小・中堅企業においても、新しい生活様式を考慮し段階的なDXの取り組みへシフトしつつあります。背景には、DX実現に向けてIT活用による組織運営やビジネスモデルの変革に積極的に取り組む企業ほど、コロナ下でも業績や企業価値を高める傾向にあることが挙げられます。

今後、DXを進展させるために、アフターコロナを見据えて組織として危機感とビジョン実現の必要性を共有し、成熟度を高めることが求められています。

図表1 先端技術の活用状況（規模別）



図表2 先端技術の活用目的（中小・中堅企業）



（資料）財務省「財務局調査による先端技術（IoT、AI等）の活用状況について」（2018年11月）

担当：事業連携部長 宮野